

酪農の底力

とわの森三愛高等学校 アグリクリエイイト科 3年 鈴木 ひかる

日本は今、酪農離れが進んでいます。

「お金がかかる」「休みがない」。そんな声が現場から聞こえてきます。私は幼いころから両親の背を追いかけて、酪農に携わってきました。そのために朝から子牛の世話をしたり、学校が終わると牛舎に行くのが当然の生活でした。しかし、苦に思ったことはありません。むしろ「酪農っていいな。」と思っています。その根源には、私が動物が大好きであることと、幼いころからの地域酪農家との関わりが影響していると考えられます。

私は道東に位置する浜名町で生まれ育ちました。浜中町は人口7000人、乳牛飼養頭数2万頭の酪農地帯で、環境問題に積極的な自然豊かな町です。小学生の時から環境学習として自然について、酪農が環境に及ぼす影響について学んでいた私は、いつしか「酪農家になって自然環境を守りたい!」という夢を抱くようになりました。そして現在、とわの森三愛高等学校機農コースで酪農について専門的に学んでいます。そこで学んだのが「循環農法」でした。酪農は元来から乳生産のために牛が排出する糞尿を草地へ還元し、収穫した草を牛の飼料とする「循環」が成り立っている農業であります。しかし、この循環にはまだ可能性があるのです。

日本を見渡すと、「エコ」「安心安全」この二つが最も重要視される世の中となり、その背景には東日本大震災での原発事故があります。放射能汚染によって壊滅的なダメージを受けた東北、出来上がっても廃棄するだけの作物、やむを得ず置き去りにされ餓死していった牛たち…。もうこんな悲しい出来事は繰り返してはいけません。だからこそ私は、酪農家から「安心な電力供給」を目指したいと考えます。

私は3月に欧州酪農研修旅行に行った際、ドイツやデンマークの酪農を見学しました。そこでは水質などの環境を守るために糞尿処理でバイオガス発電を導入していました。バイオガス発電を導入することで糞尿から発生するメタンガスによる環境破壊抑制、悪臭の除去、電力の供給から自家利用と売電が行われています。日本では昨年「再生可能エネルギー固定価格買い取り制度」が設けられ、自家発電と電力の販売が行われやすい環境が整ってきましたが、ドイツでは20年も前から電力買い取りの保障が行われ、今ではほとんどの酪農家にバイオガス発電が導入されている状況です。浜中町では以前から風力発電の導入が行われていました。そして昨年、酪農家105戸へのソーラーパネル導入が行われ、北海道の酪農家の可能性を広げる取り組みとなりました。しかし私は、

「太陽光発電は酪農家でなくともできる。酪農地帯であれば、糞尿処理問題を解決することが最優先ではないか!」と考えたのです。大規模化した我が家をはじめ、環境に

積極的な浜名町が取り組むべき糞尿処理問題解決のための糸口は、バイオガス発電にあると考えました。そこで私は浜中町の農協がバイオガス発電についてどのように考えているのかを調査しました。すると、

「導入について対策を進めていく必要がある。」と前向きにとらえていることがわかりました。今まで導入に踏み出せていないのは、プラント設置にかかる莫大な費用が原因でした。しかし、新たな「再生可能エネルギー固定価格買い取り」制度の導入によって、また社会がクリーンで安全な電力供給を求めている今、以前よりも導入しやすい環境になりつつあり、また一刻も早く導入すべきです。北海道にもある泊原発が稼動する前に…。北海道の酪農家がバイオガス発電に取り組み、「原子力発電は不要だ！北海道の酪農家が日本のエネルギーを支える！」と宣言することができたら、それはとても素晴らしいことだと思います。バイオガス発電導入の問題点である費用、消化液還元のための土地について以下の対策を私は提案します。

まずバイオガス発電を導入する場合に一番の課題となるのが費用です。これは、町単位の集約型プラントにすることで解決できると考えます。実際に鹿追町など数か所の町では、数件の酪農家が資金を出し合いプラントを設置し、電力の利用と発生した消化液は畑作農家でも利用を行っています。そして二つ目の土地問題。これは北海道の広大な草地があれば問題とはなりません。本州では個人の草地は少ないため購入飼料に頼っている状況ですが、本州に比べると北海道には草地のゆとりがあります。この二点から北海道で導入した場合、本州では還元できない消化液が北海道では還元でき、さらなる循環が実現すると考えられます。私はバイオガス発電によって「地域の活性化」、「電力供給」、「環境保全」この三つを実現したいと考えます。

バイオガス発電を導入した場合、メタンガス発生による環境破壊抑制から「環境保全」につながります。メタンガスは二酸化炭素の25倍影響のある温室効果ガスで、北海道で飼養されている80万頭以上の乳牛からは毎日莫大な量のメタンガスが発生していると考えられます。そしてこのガスから発電することにより自家利用はもちろん、一般家庭への「電力供給」も可能となります。そのために送電経路を整え、送電途中でのロスも減らすことが重要となります。そしてまずは北海道のすべての酪農家の糞尿処理エネルギーをバイオガス発電に利用し、北海道内はもちろん、本州への送電を目指します。このことから地域に新たな産業としてエネルギーが根ざし、「地域の活性化」につながると考えます。その結果、原子力に頼らない安心安全な社会が実現します。新たなものを利用するのではなく「あるものから生み出す」。これが本当の「エコ」と考えます。

北海道の開拓の歴史に酪農が大きく貢献したように、全ての事の始まりの鍵を握っているのは酪農であると私は考えています。農業経営の授業や欧州酪農研修旅行を通して

私は学びました。牛乳や肉生産をするだけが酪農ではない。酪農には多くの課題が課せられていると同時に、新たに国を創造していくのも酪農家の使命だと。日本の未来は酪農家が背負っているといっても過言ではないのです。

私は将来酪農後継者になります。私が小さい頃夢に描いた、

「酪農家になって自然環境を守りたい!」この思いは今なお心に強く焼き付いています。

地域の酪農家が実践していた環境保全活動と未来を担う子どもたちへの教育。私は地域や子どもたちへ酪農家の在り方を示し、環境保全や環境学習を行うことで人々に夢を与える酪農経営をしたい。そしてバイオガス発電導入から日本のエネルギー利用を支え、我が家から地域へ、地域から北海道へ、北海道から日本全国へ酪農のエネルギー供給の輪を広げ、日本を支える新たな主産業としての酪農を確立させる。酪農の底力はまだまだこんなもんじゃありません!それを日本中に知らせるために私は立ち上がります。

いつの日か両親が、

「自慢の後継者だ!」そう断言できるような酪農家を目指して、私はこれからも夢に向かって歩んでいきます。